

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書作成要領

事業実施後は、次の実施報告書を国際交流チームに提出してください。

- 1) 様式2-1 実施報告書（学内版）
- 2) 様式2-2 事業の取組結果
- 3) 様式2-3 事業に係る経費執行結果
- 4) 様式2-4-J 実施報告書（一般公開：日本語版）
- 5) 様式2-4-E 実施報告書（一般公開：英語版）

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

事業担当者の職・氏名：福岡昌子

内線電話番号： 9698

電子メール：fukuoka.cie@mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解
（日本語ディスカッション）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 (日本語ディスカッション)

国際交流センター 福岡昌子

(1) 事業概要

現在コロナ禍により、日本への留学が難しい。昨年度に引き続き 2021 年度前期も、海外協定校からの特別聴講学生の受入れは行わないことが決定されていた。このような状況下において、本来ならば留学によって得ることができる、日本語力の向上や学生相互の交流や異文化理解を、本事業を通して学ぶ機会を作ろうとするのが本事業の目的である。本事業に参加することによって、また、本事業を継続させることによって、三重大学の留学生獲得に貢献する。

(2) 事業の背景・これまでの実績

日本語教育を中心とした国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践：日本語教育」(2004)『2004 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ②『実践：日本語教育 I & II 2007』(I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』、II. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』)『2007 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ③「国際交流および日本文化学習のための京都研修―幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ―」「三重大学国際交流基金国際交流事業」、40 千円

(3) 事業実施結果

(3) -1. 実施概要

・目的：本事業を通して、協定校の学生同士が相互に交流を行い、異文化理解の視点や日本社会・日本文化について知見を深める。本事業に参加することによって、また、本事業を継続させることによって、三重大学の留学生獲得に貢献する。

・実施日程：2021 年 11 月 10 日～2022 年 2 月 9 日、16 時 20 分～17 時 50 分、合計 13 回

・参加大学および参加人数：ハイデルベルグ大学 3 名 (ドイツ)、ホーチミン師範大学 1 名 (ベトナム)、カセサート大学 2 名 (タイ)、国立中山大學 1 名 (台湾)、南台科技大学 1 名 (台湾)、広西大学 3 名 (中国)、上海海洋大学 1 名 (中国)、南京技大 2 名 (中国)、安徽農業大学 1 名 (中国)、三重大学 3 名 (日本)、合計 6 か国 18 名

・内容：①海外の協定校の学生と三重大学の日本人学生が、互いに異文化の視点を尊重し、日本社会や文化について学び、Zoom でディスカッションする。②受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する力を養う。

・主なスケジュール：第 1 回～第 6 回 オリエンテーション、ディスカッションの進め方、座長グループ決め、第 7 回～第 12 回：各座長グループ主導によるディスカッション、第 13 回 フィードバック、入賞者発表、Zoom 交流、アンケートの提出

・座長グループが提案したテーマ：「次世代のアニメで、世界で人気が出るにはどのような要素が必要か」、「幸せな結婚生活を送るには、見合い結婚と恋愛結婚どちらがよいか」、

「日本社会で今後も年功序列は重要視すべきか」、「高額収入を得るためには、大学院に進学すべきか否か」、「ラーメンは健康的か否か」、「美容整形した方が人生でメリットが大きいか」について、毎回グループに分かれてディスカッションした。

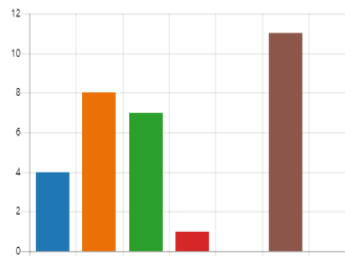
(3) -2. アンケート結果

21個のアンケート項目から、Q2、6、7、19、21、25の結果について述べる。

Q2、Q7から「日本語ディスカッション」に参加して、楽しく交流できたことや毎回異なるテーマやメンバーでディスカッションできたことが楽しかったことがわかる。Q6から自分の考えをまとめて、日本語で発表し意見が言えたとの回答から、多くの受講者が日本語の上達を意識している。Q19から、「日本語ディスカッション」は国際交流事業として実施したが、単位が取得できる協定校オンラインサービス授業に加えてほしいことがわかった。Q21から三重大学（大学院）に留学してみたいという回答が多かった（87.5%）

Q2. 特に何が楽しい、面白いと思えましたか？（回答2つ）

- 座長同士の事前準備の相談 (4)
- 毎回異なるテーマのもとにディスカッションをしたこと (8)
- 毎回異なるメンバーでディスカッションしたこと (7)
- 毎回グループごとに競わせるところ (1)
- オンラインでディスカッションできたこと (0)
- ディスカッションを通してみんなと楽しく交流できたこと (11)
- その他 (0)



Q6. 自分の考えをまとめて、日本語で発表し、意見を言えましたか？

- はい 16
- いいえ 0



Q7. ディスカッションを通して、協定校のみなさんと交流ができましたか？

- はい 16
- いいえ 0



Q19. 本授業は、国際交流事業なので、単位はもらえませんが、
単位に交換できる「協定校オンラインサービス授業」に加えてほしいですか

● はい 16
● いいえ 0



Q21. 本授業を受けて三重大学（院）へ留学したくなりましたか？

● はい 14
● いいえ 2



Q25. その他感想から

・いろいろな国の学生さん達と話し合ったり、意見を交換したり、すごく勉強になりました！日本語会話能力も少し上達したような気がしています。本当に楽しかったです。参加できてよかったです！

・いろいろな国から参加した皆さんと出会えて、日本語で相談したりディスカッションしたりして、本当に楽しかったです。授業のように日本語が磨けますから、もっと日本語を勉強したくなりました。国々の異文化を理解でき誠にありがとうございました。皆さんと一緒に勉強できて本当に楽しかったです。

・正直言って、思ったより早く終わりました。ちょっと惜しいと思います。しかし、いろいろ勉強になりまして、本当に楽しいと思います。

・コロナの影響で、なかなか日本に行けなくて、三重大学にも行けません。これは何よりも残念だと思っています。幸いに、オンライン交換留学のようなディスカッション活動に参加できました。多くの国の人と日本語で交流しながら異文化に触れることができました。楽しくて幸せだと思っています。絶対一生忘れられないこととして心に残していきます。

・心から日本に行きたいと思っています。まだまだ習った知識が足りないと知っているから、いつか日本へ留学に行きたいと思っています。これから日本語教育の現場の中で、経験を積んで、研究したいことを発見します。チャンスあれば、ぜひ留学に行きます。

・日本に興味のある留学生と交流できて楽しかったです。また、各座長テーマの中には留学生ならではの、『他国から見た日本への意見』があり日本人では気づかない視点に気づくことができました。この授業を後輩や他の学生にも広めたいですし、機会があればもう一度参加したいと思っています！”

(4) 事業の意義

(3) で報告した結果から、本事業の意義として次の4点が挙げられる。

①本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。

②コロナ禍において留学できずにいる協定校の留学生の日本語力の向上、学ぶ機会を提供することができた。

③三重大学（大学院）へ留学希望した学生は87.5%だったというアンケート結果から、今後本事業を継続・実施することで、三重大学（大学院）への留学生の獲得に期待できる。

④協定校との国際交流を持続発展させることができた。

（5）事業の発展性

事業の発展性として、下記の4点が考えられるが、2021年度から国際交流センターで開始した単位に交換できる「協定校オンライン日本語授業サービス」の科目に加え、他の興味ある科目数を増やすなどして、今後も事業の発展性を考えたい。

①本事業を継続させることによって三重大学（大学院）への留学生の獲得に貢献できる。

②協定校との国際交流を持続発展させることができる。

③日本人学生の海外留学支援及び留学生の支援を推進できる。

④世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

（6）中期目標・中期計画における位置づけ

下記の第3期中期目標・中期計画の①②③に該当すると思われる。

①Ⅰ. 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置。

1 教育に関する目標を達成するための措置。

（3）学生への支援に関する目標を達成するための措置・学生の海外留学支援及び留学生の支援を推進するため、魅力ある海外留学プログラムの更なる充実や、留学生の意見を取り入れた支援施策を実施する。

②4 その他の目標を達成するための措置

（1）グローバル化に関する目標を達成するための措置（大学と地域のグローバル化推進） 1 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の20%とし、受入留学生数については第2期の平均に比べ10%増加させる。

③（戦略性が高く意欲的な計画）（海外大学との交流の実質化） 1 地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

（7）その他

特になし

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解

（日本語ディスカッション）

国際交流センター 福岡昌子

（1）実施概要

現在コロナ禍により、日本への留学が難しい。昨年度に引き続き 2021 年度前期も、海外協定校からの特別聴講学生の受入れは行わないことが決定されていた。このような状況下において、本来ならば留学によって得ることができる、日本語力の向上や学生相互の交流や異文化理解を、本事業を通して学ぶ機会を作ろうとするのが本事業の目的である。本事業に参加することによって、また、本事業を継続させることによって、三重大学の留学生獲得に貢献する。

（2）実施内容

・目的：本事業を通して、協定校の学生同士が相互に交流を行い、異文化理解の視点や日本社会・日本文化について知見を深める。本事業に参加することによって、また、本事業を継続させることによって、三重大学の留学生獲得に貢献する。

・実施日程：2021 年 11 月 10 日～2022 年 2 月 9 日、16 時 20 分～17 時 50 分、合計 13 回

・参加大学および参加人数：ハイデルベルグ大学 3 名（ドイツ）、ホーチミン師範大学 1 名（ベトナム）、カセサート大学 2 名（タイ）、国立中山大學 1 名（台湾）、南台科技大学 1 名（台湾）、広西大学 3 名（中国）、上海海洋大学 1 名（中国）、南京技大 2 名（中国）、安徽農業大学 1 名（中国）、三重大学 3 名（日本）、合計 6 か国 18 名

・内容：①海外の協定校の学生と三重大学の日本人学生が、互いに異文化の視点を尊重し、日本社会や文化について学び、Zoom でディスカッションする。②受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する力を養う。

・主なスケジュール：第 1 回～第 6 回 オリエンテーション、ディスカッションの進め方、座長グループ決め、第 7 回～第 12 回：各座長グループ主導によるディスカッション、第 13 回 フィードバック、入賞者発表、Zoom 交流、アンケートの提出

・座長グループが提案したテーマ：「次世代のアニメで、世界で人気が出るにはどのような要素が必要か」、「幸せな結婚生活を送るには、見合い結婚と恋愛結婚どちらがよいか」、「日本社会で今後も年功序列は重要視すべきか」、「高額収入を得るためには、大学院に進学すべきか否か」、「ラーメンは健康的か否か」、「美容整形した方が人生でメリットが大きいか」について、毎回グループに分かれてディスカッションした。

（3）実施結果—アンケートの結果から—

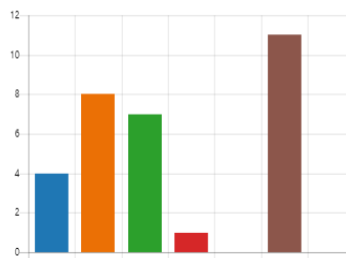
21 個のアンケート項目から、Q2、6、7、19、21、25 の結果について述べる。

Q2、Q7 から「日本語ディスカッション」に参加して、楽しく交流できたことや毎回異なるテーマやメンバーでディスカッションできたことが楽しかったことがわかる。Q6 から自分の考えをまとめて、日本語で発表し意見が言えたとの回答から、多くの受講者が日本語の上達を意識している。Q19 から、「日本語ディスカッション」は国際交流事業として実施

したが、単位が取得できる協定校オンラインサービス授業に加えてほしいことがわかった。Q21 から三重大学（大学院）に留学してみたいという回答が多かった（87.5%）

Q2. 特に何が楽しい、面白いと思えましたか？（回答2つ）

- 座長同士の事前準備の相談（4）
- 毎回異なるテーマのもとにディスカッションをしたこと（8）
- 毎回異なるメンバーでディスカッションしたこと（7）
- 毎回グループごとに競わせるところ（1）
- オンラインでディスカッションできたこと（0）
- ディスカッションを通してみんなと楽しく交流できたこと（11）
- その他（0）



Q6. 自分の考えをまとめて、日本語で発表し、意見を言えましたか？

- はい 16
- いいえ 0



Q7. ディスカッションを通して、協定校のみなさんと交流ができましたか？

- はい 16
- いいえ 0



Q19. 本授業は、国際交流事業なので、単位はもらえませんが、単位に交換できる「協定校オンラインサービス授業」に加えてほしいですか

- はい 16
- いいえ 0



Q21. 本授業を受けて三重大学（院）へ留学したくなりましたか？

- はい 14
- いいえ 2



Q25. その他感想から

・いろいろな国の学生さん達と話し合ったり、意見を交換したり、すごく勉強になりました！日本語会話能力も少し上達したような気がしています。本当に楽しかったです。参加できてよかったです！

・いろいろな国から参加した皆さんと出会えて、日本語で相談したりディスカッションしたりして、本当に楽しかったです。授業のように日本語が磨けますから、もっと日本語を勉強したくなりました。国々の異文化を理解でき誠にありがとうございました。皆さんと一緒に勉強できて本当に楽しかったです。

・正直言って、思ったより早く終わりました。ちょっと惜しいと思います。しかし、いろいろ勉強になりまして、本当に楽しいと思います。

・コロナの影響で、なかなか日本に行けなくて、三重大大学にも行けないです。これは何よりも残念だと思っています。幸いに、オンライン交換留学のようなディスカッション活動に参加できました。多くの国の人と日本語で交流しながら異文化に触れることができました。楽しくて幸せだと思っています。絶対一生忘れられないこととして心に残していきます。

・心から日本に行きたいと思っています。まだまだ習った知識が足りないと思っていますから、いつか日本へ留学に行きたいと思っています。これから日本語教育の現場の中で、経験を積んで、研究したいことを発見します。チャンスあれば、ぜひ留学に行きます。

・日本に興味のある留学生と交流できて楽しかったです。また、各座長テーマの中には留学生ならではの、『他国から見た日本への意見』があり日本人では気づかない視点に気づくことができました。この授業を後輩や他の学生にも広めたいですし、機会があればもう一度参加したいと思っています！”

(4) 事業の意義

(3) で報告した結果から、本事業の意義として次の4点が挙げられる。

- ①本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ②コロナ禍において留学できずにいる協定校の留学生の日本語力の向上、学ぶ機会を提供することができた。
- ③三重大大学（大学院）へ留学希望した学生は87.5%だったというアンケート結果から、今後本事業を継続・実施することで、三重大大学（大学院）への留学生の獲得に期待できる。
- ④協定校との国際交流を持続発展させることができた。

(5) 事業の発展性

事業の発展性として、下記の4点が考えられるが、2021年度から国際交流センターで開始した単位に交換できる「協定校オンライン日本語授業サービス」の科目に加え、他の興味ある科目数を増やすなどして、今後も事業の発展性を考えたい。

- ①本事業を継続させることによって三重大大学（大学院）への留学生の獲得に貢献できる。
- ②協定校との国際交流を持続発展させることができる。
- ③日本人学生の海外留学支援及び留学生の支援を推進できる。
- ④世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Cross cultural exchange by participating in Japanese language Zoom discussions with students at overseas partner schools

Fukuoka Masako (Center for International Education and Research)

(1) Implementation content:

Currently, it is not possible for overseas students to study in Japan due to the Corona virus pandemic. Like last year, it was decided not to accept special auditing students from overseas partner schools in the first half of 2021. Under these circumstances, the purpose of this project is to create opportunities to learn and improve Japanese language ability, foster mutual exchange between students, and develop the understanding of different cultures which would all normally be obtained by studying abroad. By participating in this project and delivering this project, we will contribute to the continued acquisition of international students at Mie University.

(2) Implementation details

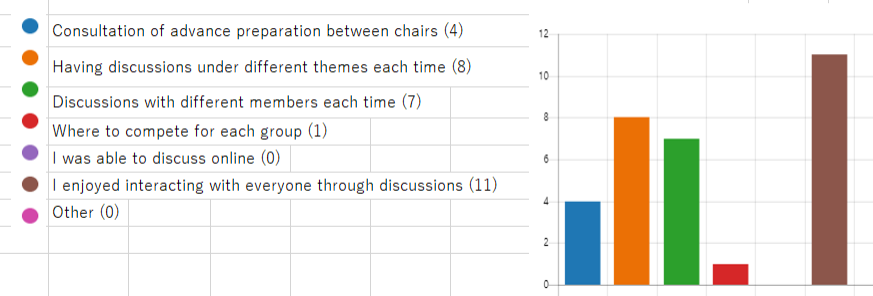
- Purpose: Through this project, students from partner schools will interact with each other and deepen their knowledge from the perspectives of cross-cultural understanding and Japanese society / culture.
- Schedule: November 10, 2021 to February 9, 2022, 16:20 to 17:50, 13 sessions in total
- Participating universities and number of participants: University of Heidelberg 3 (Germany), Ho Chi Minh City University of Education 1 (Vietnam), Kasetsart University 2 (Thailand), National Sun Yat-sen University 1 (Taiwan), Southern Taiwan University of Science and Technology 1 (Taiwan), Guangxi University 3 (China), Shanghai Ocean University 1 (China), Nanjing Tech University 2 (China), Anhui Agricultural University 1 (China), Mie University 3 (Japan), 18 people from 6 countries in total.
- Contents: (1) Students from overseas partner universities and Japanese students from Mie University will explore each other's perspectives on different cultures, learn about Japanese society and culture, and have discussions on Zoom. (2) Students will improve their ability to observe society and culture, and develop the ability to summarize and present their thoughts.
- Main schedule: 1st to 6th orientation, how to proceed with discussion, chair group decision, 7th to 12th: discussion led by each chair group, 13th feedback, winner announcement, Zoom exchange, Submission of the questionnaire.
- Themes proposed by the chair group: "What factors are needed to become internationally popular when creating next-generation animation?", "Which is better, a matchmaker marriage or a love marriage if we want to have a happy marriage?" , "Should seniority be important in Japanese society?", "Should I go to graduate school to earn a high income?", "Is ramen healthy?", "Beauty shaping makes for a happy and

healthy life." We divided into groups and discussed one topic each time.

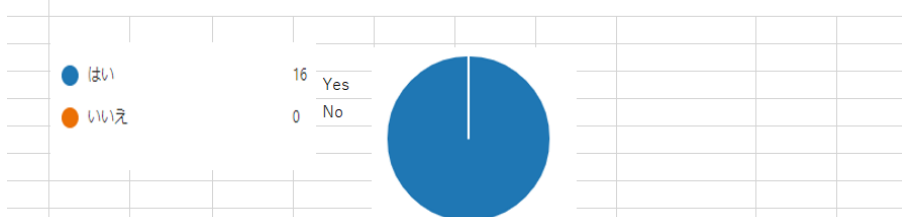
(3) Implementation results

From the results of the questionnaire- From the 21 questionnaire items, the results of Q2, 6, 7, 19, 21, and 25 will be described. From Q2 and Q7, we can see that participants enjoyed participating in the "Japanese Discussion" and having fun interacting with each other and having discussions on different themes and with different members each time. Many students are conscious of improving their Japanese from the answers in Q6 that show they summarized their thoughts, presented them in Japanese, and expressed their opinions. From Q19, we found that "Japanese discussion" was conducted as an international exchange project, but students would like it to be added to the online classes of partner schools where credits can be earned. Almost all respondents said that they would like to study abroad at Mie University (graduate school) from Q21 (87.5%).

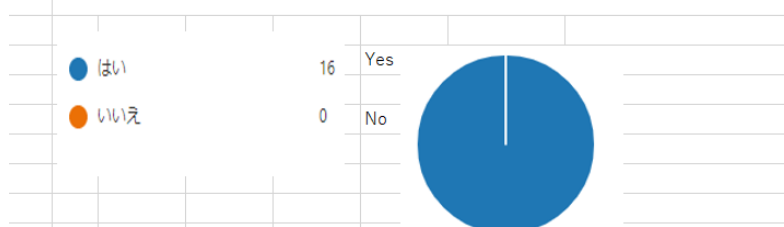
Q2. What did you find particularly fun and interesting? (2 answers)



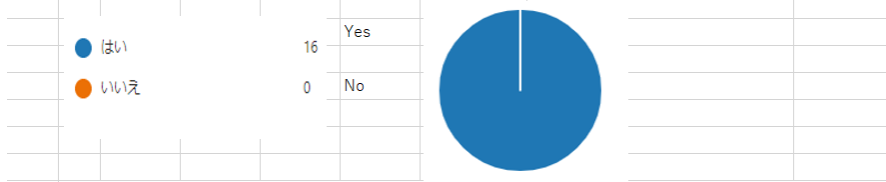
Q6. Did you summarize your thoughts, present them in Japanese, and give your opinion?



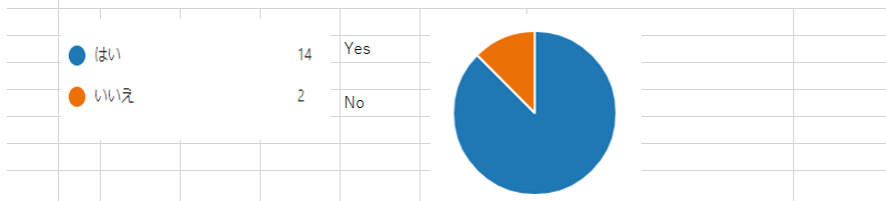
Q7. Did you interact with the partner schools through the discussion?



Since this class is an international exchange project, you will not receive credits. Do you want me to add it to the "partner school online service class" that can be exchanged for credits?



Q21. Did you want to study abroad at Mie University (institute) after taking this class?



Q25. From other impressions

- I learned a lot by discussing and exchanging opinions with students from various countries! I feel that my Japanese conversation ability has improved a little. It was really fun. I'm glad I was able to participate!
- It was really fun to meet people from various countries and have discussions and discussions in Japanese. I can improve my Japanese like a class, so I wanted to study more Japanese. Thank you for understanding the different cultures of each country. I really enjoyed studying with you.
- To be honest, it ended earlier than I expected. I think it's a little regrettable. However, I've learned a lot and I think it's really fun.
- Because of the influence of Corona, I can't easily go to Japan and I can't go to Mie University. I think this is the most disappointing. Fortunately, I was able to participate in discussion activities such as online exchange study abroad. I was able to experience different cultures while interacting with people from many countries in Japanese. I think it's fun and happy. I will leave it in my heart as I will never forget it.
- I really want to go to Japan. I know that I still lack the knowledge I have learned, so I would like to study abroad in Japan someday. From now on, in the field of Japanese language education, I will gain experience and discover what I want to study. If I have a chance, I will definitely go to study abroad.
- It was fun to interact with international students who are interested in Japan. In addition, each chairperson's theme included "opinions on Japan from the perspective of other countries," which is unique to international students, and I was able to notice perspectives that Japanese people do not notice. I want to spread this class to my juniors and other students, and I would like to participate again if I have the opportunity! "

(4) Significance of business :

From the results reported in (3), the following four points can be cited as the significance of this project.

(1) We were able to contribute to mutual exchange and understanding of different cultures between our students and also between the students of our partner schools.

(2) We were able to improve the Japanese proficiency of students at partner schools who were unable to study abroad due to the Corona virus pandemic and provided them with opportunities to learn.

(3) From the result that 87.5% of the students wished to study abroad at Mie University (graduate school), we can expect to acquire international students at Mie University (graduate school) by continuing and implementing this project in the future.

(4) We were able to sustainably develop international exchange with partner schools.

(5) Business development potential :

The following four points can be considered as the business development potential. In increasing the number of courses that make up the "Partner School Online Japanese Language Class Service", which can be exchanged for credits, and which started at the International Exchange Center in 2021, I would like to continue to think about the development potential of the business.

(1) By continuing this project, we can contribute to the acquisition of international students at Mie University (graduate school).

(2) It is possible to sustainably develop international exchange with partner schools.

(3) It is possible to promote support for Japanese students studying abroad and support for international students.

(4) It is possible to develop global human resources who can play an active role in the world.